

脊髄刺激療法とは

脊髄刺激療法は、脊髄に微弱な電気刺激を流すことにより、慢性の痛みを和らげる治療です。脊髄に微弱な電気が流れることによって得られる刺激感が、痛みのある部分に重なることで痛みが和らぐとされています。

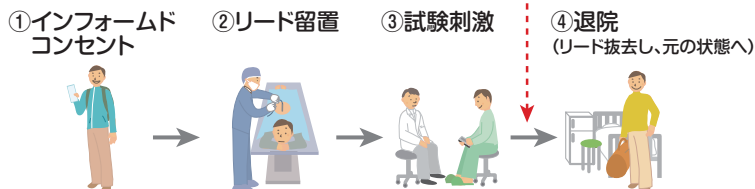
海外では40年以上前から行われ、国内外で数多くの患者さまがこの治療を受けています。

脊髄刺激療法の流れ

体内に刺激装置を埋込む前に、脊髄刺激療法の効果判定を目的とした試験刺激 **トライアル** があります。

トライアル時に効果があり、患者さまご自身が希望した場合に刺激装置を埋込みます。 **本埋込み**

トライアル



本埋込み

トライアルで効果があった場合



たとえばこんな痛み

- 脳卒中後に起こる四肢の疼痛 (肩手症候群)
- 脊髄・脊椎の骨変化に起因する神経障害性疼痛
- 末梢血管障害 (ASO、バージャー病、糖尿病性血管障害など)
- 脊柱管狭窄症、頸椎症による神経障害性疼痛
- 術後疼痛 (FBSS)
- その他の神経障害性疼痛
- パーキンソン病の疼痛

治療で使用する機器

-
- 1 刺激装置
電気刺激を発生させる装置
 - 2 リード(刺激電極)
電気刺激を脊髄へ送る電極
 - 3 アダプタ
刺激装置とリードをつなぐ導線
(※使用しない場合もあります)
 - 4 患者用プログラマ
体の外から刺激装置の調節を行う

脊髄刺激療法は、痛みを和らげることで、日常生活の活動の幅を広げることを目的としています。